

境内の
楽しい
スポット



米沢の伝統玩具 笹野一刀彫

「お鷹ぼっぼ」に代表される笹野一刀彫は、この地に千数百年続く伝統玩具。十代藩主上杉鷹山が農家の副業として指導奨励したことから盛んになったとされている。最近では見かけることが少なくなりましたが、ここ林泉寺の境内には実演販売コーナーが設けられている。



直江兼統夫妻の墓

向かって左が兼統、右がお船(せん)の方の墓。大きさはまったく同じで、お船の方は当時の賢夫人と称され、3千石の領地が与えられたという



万年堂

米沢地方独特の墓石で、考案者は直江兼統。洪水や戦の際に川の水をせき止めたり敵の弾避けにと考えられた



媛姫(はるひめ)の墓

四代上杉綱勝の正室。廟所の中でもひと際大きいこの墓は、わずか19歳で亡くなった媛姫への綱勝の想いからか



お豊の方の墓

十代上杉鷹山の側室。正室幸姫が32歳で逝去したあと、正室に代わる賢夫人として藩の改革に貢献した



仙洞院(綾御前)の墓

上杉謙信の姉で景勝の実母。菩提寺建立に大変尽力されたことから中興開基(ちゅうこうかいぎ)の称号が与えられた



上杉謙信の廟所。一段奥に廟屋がある



〈右〉二代目上杉景勝の廟屋。入母屋造りの立派な付まい
〈左〉十代目上杉治憲(鷹山)の廟屋。九代目から土葬となり、簡素な宝形造りに

歴代米沢藩主を祀る 上杉家廟所

上杉家の米沢移封に伴い、上杉謙信の遺骸は米沢城本丸の御堂に移され、真言宗寺院二十一か寺によって守護された。現在の場所、城にもしものことがあった場合に備え、謙信の遺骸の避難所として設けられたものだが、二代目景勝の死後(元和九年へ一六二三年)、上杉家の廟所となった。以降、上杉十二代藩主までがここに埋葬されている。

明治政府の「廢城令」によって米沢城が解体され、御堂に安置されていた謙信の遺骸は明治九年(一八七六年)こちらに移された。また、二十一か寺の頭であった法音寺も御廟所前に移り、藩主の位牌などをお護りしている。廟所は、上杉謙信を正面中央に、向



法音寺の本堂に納められている歴代藩主のお位牌

「龍」と「毘」の幟が翻る上杉家廟所。正面奥が上杉謙信の墓

